

松伏町立松伏小学校

私ができること

五年 四組

石川

心麗 X

わたしの将来の夢は警察官になることです。

最近ニュースを見ていると心が痛くなるニユ

ースを目にする事が多くあります。

最近見たニュースの中で「ネットいじめ」と

いう言葉があります。気になって調べてみ

ると一才一五才までの児童に多く、これ

は六人に一人にあたり、かなり多い数字だと

いう事がわかりました。

「ネットいじめ」とは具体的にどのようなも

のなのかを調べるとSNSで悪口を言われた

り「おとし文句やからかい」などが多いそう

です。なかでも心が痛くなるニユースを目に

しました。それは「ネットいじめ」による自

さつです。

私と年の近い子が学校で配布されたタブレ

ットたん未で悪口を書き込まれ「うざい」「死

んで」など同級生に書き込まれ仲間外れにさ

れていたというニユースでした。

私はこのニュースを目にした時とても心が痛く
かなしくなりました。私の年も近いのでとても身
近に感じるニュースでした。被害者、加害者になら
ないためにはどうしたらよいのかを考えてみました。
近いことがあるときは、その子が話題に出
しやすく相言しやすいかんきょうを作ること
が重要だと思いました。両親、先生、友達など
から子どもからコミュニケーションを取
り信らい関係をきずいておくこ
とが大切だと思いました。その他のニュースでは「男
女差別」という言葉がありました。男女差別とは日
本国内に昔からある差別問題で日本は世界でも
アメリカ、ドイツ、フランスなどの先進国に比
べて平等が低いという事実がありました。このニ
ュースを見た時に前にお母さんが「お母さんの
小学生の時は男の子は黒いランドセ

ル、女の子は赤いランドセルしかなく、
 と言っていたのを思い出しました。
 それを聞いて思ったのが昔から女の子は赤や
 ピンクなどの色、男の子は黒や青い色などの
 イメージをみんなかもっていてそれも差別な
 のだと私は思いました。
 お母さんの子どもものころとは今はだいぶ変わ
 ったところも多いかもしれませんが、でもまだ
 男女差別はあります。
 だから、これが男らしい、これが女らしいし
 と決めつけるなど社会や文化の中で作られた
 差別をこれから私達に変えていかなければな
 らないのだと思います。
 このようないじめが痛いかなしいコースや差
 別がおこらないために、私は子どもの安全や
 はんざいの被害にあわないための活動や差別
 を無くすための活動を考え子どもや女性を守
 るような言葉、察官になりたいです。